

サンカグシャ

どんな若者のありたい姿も、
あきらめない



ANNUAL REPORT 2024-25



どんな境遇にあった若者でも 安心して生き抜いていける社会へ

Mission

どんな若者のありたい姿も、あきらめない。

Vision

一人ひとりが自分の人生を生きることができる社会の実現



サンカクシャは2024年5月に5周年を迎えました。

社会の若者支援への関心があまりなかった頃からたくさんの人に支えられ、なんとか活動を続けられました。

今では、少しずつ若者支援の必要性も認識されてきており、支援が広がりはじめています。

2024年度もみなさまのご支援、本当にありがとうございます。

2024年度は、スタッフも30名を超え、居場所、住まい、仕事の支援に加えて、

若者の課題の認知拡大や政策提言にも注力しました。

私たちの見据える先を改めて考え、ミッション・ビジョンをリニューアルしました。

若者自身や周りの人が諦めても私たちは諦めず、それぞれが自分の人生を歩めるよう、

これからも若者をみんなで応援する環境をつくっていきます。

代表 荒井 佑介

サンカクシャにつながる若者

※2024年度の新規相談データ

男女比率

男性 : 50%
女性 : 41%
その他 : 9%

年齢比率

15-19 歳 : 31%
20-24 歳 : 47%
25-29 歳 : 15%
その他 : 7%

相談内容

居場所 : 33%
住まい : 52%
仕事 : 9%
その他 : 7%

サンカクシャにつながる若者は、新規相談の85%が18歳以上で20代前半が最も多く相談内容は様々。虐待、ヤングケアラー、ワーキングプアなど、対象を絞りすぎず、複数の困りごとを抱える若者にアプローチしています。

私たちとつながる経路は、自ら相談するケースが半数ほど。行政、他団体、病院、警察、親からの問い合わせもあります。また全国的に男性向けの居住支援が少ないことから、近年は男性相談者が増加しています。

サンカクシャにつながった若者たち

ケース 1

A くん

精神的に不安定な母からの過干渉、暴力を受けて育つ。家にいられず自力で逃げるも、警察に保護され連れ戻される。スマホや身分証など居場所のわかるものを持たず上京し、路上生活となった。



ケース 2

B さん

幼少期から家庭のトラブルを抱え、警察に通報するも保護されなかった。家にいられず、10代後半から男性宅を転々とする。人間関係が続かず、散財と借金を繰り返して、心身が不調に。



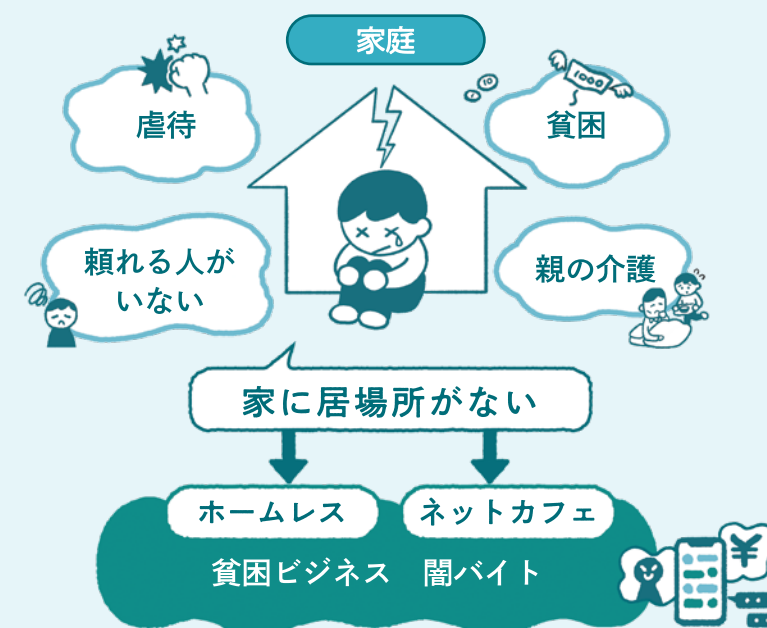
ケース 3

C さん

人づきあいや集団行動が苦手で、学生生活に苦しむ。授業での発言を笑われたのがきっかけとなり、人に不信感を募らせて引きこもりに。YouTube 動画でサンカクシャを知って繋がる。



背景にある社会課題



18 歳を過ぎた若者への支援は急激に少なくなります。「行政に相談すればいい」「若いのだから働けばいい」と思われがちですが、長年虐待などにさらされてきた若者は生きる意欲を失っていたり、大人への不信感を抱いていることが多く、相談にいたるまでに高いハードルがあります。家を逃れ行き場のない若者たちは、闇バイトや貧困ビジネスなどの脅威にさらされています。

サンカクシャの5つの支援ステップ

サンカクシャがこれまでに築き上げてきた支援体制です。

若者たちの成長は決して一直線ではありません。試行錯誤しながら各ステップを踏み、ときには戻ることも。

約3年の時間をかけて、少しずつ自立へと向かっていきます。

ひとりの若者の自立をサポートするために必要な費用は、約350万円。

サンカクシャは、年間250人以上の若者を継続的にサポートしています。



若者の課題が焦点に 命ある若者が活躍できる社会へ



2024 年度は企業、行政の皆様と連携することで、若者の課題に大きく焦点をあてられた 1 年でした。取り組みのひとつとして、経済同友会や新公益連盟と連携し、フィールドビジットとパネルディスカッションを開催。これからの若者の課題について議論を交わし、それぞれの立場を超えて社会で向き合う機運が、具体的なかたちとなって動き出す契機となりました。

経済同友会 新浪代表幹事と代表 荒井のコメントを振り返ります。

新浪 剛史 経済同友会代表幹事

サントリーホールディングス（株）代表取締役会長。経済財政諮問会議民間議員。三極委員会アジア太平洋委員長、米国 The Business Council メンバー等も務める。



荒井佑介 NPO 法人サンカクシャ代表理事

大学生時代から、ホームレス支援や子どもの貧困問題に関わる。2019 年に NPO 法人サンカクシャを立ち上げ、居場所、住まい、仕事の 3 つの軸で若者を支援している。



フィールドビジット

2024年7月、経済同友会の皆様がサンカクシャの現場を訪れる「フィールドビジット」を開催しました。この企画は、NPO団体の現場訪問を通じて、課題の解像度を上げるとともに、行政への提言や企業との連携を促進することを目指した企画です。サンカクキチを見学していただき、代表の荒井や若者と交流しました。



若者コメント

A 君：親にずっと暴力を振るわれてきた。コミュニケーションの方法は殴ることしか知らなかった。サンカクシャで過ごすようになって、感情のコントロールが大事だと思えるようになった。



B 君：16 年間、親から虐待と過干渉を受けてきた。学校でもいじめられ居場所がなく、就職するも萎縮してうまくいかなかった。家を出るも困窮状態。上京して貧困ビジネスに繋がった。



荒井さん

現在、サンカクシャにはほぼ毎日、全国から困窮する若者の新規相談があります。対応キャパは常にオーバーしており、数少ない全国の若者支援団体はどこも同じように逼迫しています。一方、こうした需要に対して、若者に向けた公的支援はほとんどない状態です。

また、20 年虐待を受けた若者が 1 年で就職することは難しく、回復して社会と繋がるまでは 3 年ほどの伴走支援が必要です。



新浪代表幹事

正直全く知りませんでした。私以外にも、そういう人がすごく多いんじゃないかと思います。

これまで我々は「働く人が足りない」「少子化をどうしたらいいか」などの課題に向き合ってきました。しかし、今お話を聞いて思うのは「生を受けてきた若者がこの社会で活躍してもらわなければいけない」ということ。少子化対策とともに若者支援も進めなければ、意味がないとも言えるでしょう。

ただ、お金だけで解決する話ではないですね。むしろ、この社会課題の解決方法を一緒に考えてくれる社員がいたら、その会社は素晴らしい会社だと思います。そういう会社や仲間を増やしたいですね。

まずは若者の課題の認知を高めることが重要です。認知さえあれば、サンカクシャのような活動は自然と立ち上がってくると思います。

生きていてくれてよかった。

何年かかってもいいから、社会との交わりをもってもらいたいですね。

（ある若者に向けて）いい顔してるよ。

ここに来る前とは、きっと随分変わったんだろうね。



経済同友会共催パネルディスカッション 「若者の貧困解決に向けて」



パネルディスカッションでは、こども家庭庁に「親を頼れず孤立する若者支援に関わる提言」を提出。



2025 年 1 月、経済同友会とサンカクシャ共催で「若者の貧困解決に向けて」と題したパネルディスカッションを開催。代表の荒井より若者の貧困についてご報告し、本テーマに関心を寄せていただきました。こども家庭庁 渡辺由美子長官に登壇いただき、経済界・行政・支援現場といった多様な担い手がそれぞれの視点から議論しました。

荒井さん

若者の課題を深く知り、議論する土台づくりへ

今後は、若者支援を議論する土台が重要だと考えています。現状の支援の枠にはまらない若者にアプローチするには、若者の支援における対象を特定し、支援を届ける体制を整える必要があります。困窮する若者に対する調査が行われていないこと、支援を届ける体制が国、都道府県と市区町村とバラバラであることから、まず議論する場が必要ではないでしょうか。

明日の支払いに困る若者への仕事づくり

行政とあわせて、企業の力が必要だと考えています。大きな理由が闇バイト問題です。若者が誰にも頼れない状態で困窮すると、SNSを通して搾取したい大人に繋がってしまいます。若者たちは明日の携帯電話の支払いと引き換えに、グレーな仕事をしてしまうのです。

特殊詐欺の被害額は450億円※)ほど。犯罪抑止の意味でも、今後は闇バイトに代わる仕事を作って戦っていくしかない。企業の皆さまと連携して、仕事を作り若者を育てられないかと考えています。

※2023 年度のデータ、2024 年度は約 6 割増のおよそ 710 億円



新浪代表幹事

社会課題を解決する共助資本主義へ

資本主義は社会を豊かにしてきたという意味で、必要不可欠なものであると考えます。しかし、一部の人が豊かになることは大きな課題ではないでしょうか。この問題に対して、共に助け合う、共助資本主義が成り立つ新しい経済社会をつくる必要があるでしょう。

共助の考えのもとで、企業はより一層社会の役割が求められます。企業のノウハウや資金力などを活用し、社会の課題に取り組むこと。若者が生きる喜びを持てるような社会を、企業と共につくっていくことが重要です。

若者を繋ぐサンカクシャ

フィールドビジットで、生きる喜びがない若者がこんなにいるのかと痛感しました。闇バイトに加担することもあると聞き、より周知すべきだと感じました。様々な局面で連携を図っていきたくですし、支援の手前にも重要なことがあります。若者のために何をすべきかは、彼ら彼女らの声に耳を傾けるためにも、その通訳をサンカクシャに担ってもらう必要があります。



サンカクシャにつながる若者に聞いた ▶ 困窮した経験

持っていない身分証は？（複数回答可）

マイナンバー 20%
保険証 26%
運転免許証 57%

借金をしたことがある

48%

家賃が払えなかったことがある

42%

住む場所、食べるものがなくなったら？

- ・綺麗なトイレやシャワーのある空港で寝泊まり
- ・自転車を盗んでわざと警察に捕まる
- ・出会い系アプリを使って知らない人の家に泊まる

※2025 年 4～5 月実施、サンカクシャにつながる若者 106 名対象のアンケートより。

サンカクシャにつながる若者に対して行ったアンケート・ヒアリングで、借金があったり、身分証を持っていない若者の実態が明らかになりました。虐待、ネグレクトなどを受けた経験から、周りの大人に頼る、公的支援を受けるなどの選択肢をもたない若者は、困窮した状況を打開するために当事者なりの解決方法を模索します。ある若者は「目の前のことに必死で焦りもあり、罪を犯して捕まるしか選択肢が思い浮かばなかった」と話します。生き抜こうとするうちに搾取する大人のいる場にさらされ、犯罪に巻き込まれやすい状況に陥っていくのです。

数字で見る サンカクシャ

2024年度の若者とサンカクシャの活動にまつわる数字を集めました。若者を支えるサンカクシャらしい活動は、ご支援くださる皆様のおかげで実現しています。

STEP1 若者とつながる

2024年度 新規相談者数

235人

相談数は増加の一途をたどり、一時、新規相談の受付を休止する事態に。現在、他団体や行政と連携し支援体制の強化を図っています。

家・家族が
怖くて
帰れない若者(※)

62%

代表 荒井 祐介



住む場所に困って、
自宅や友人宅以外の
場所で寝泊まり
した若者(※)

30%

こうした若者の約35%(※)は、公的な支援につながっていません。サンカクシャへの相談から行政の支援や医療機関につながった例もあります。

STEP2 安心できる場を提供する

2024年度 食費

キチで
提供したご飯
3000食
以上！

約188万円

居場所で提供するご飯(1食あたり200円ほど)の食材費、ブカツのドリンク代、所持金が少ない若者へ提供する食品にかかった費用。

2024年度 家賃補助

300万円

生活に困窮する若者18名に月3万円の家賃補助を6ヶ月間支給し、生活立て直しのための伴走支援をしました。

※山本正喜ポリシー基金、SoilxPolicy Fund、第3回「ソーシャル・グッド基金」の支援により実現。

若者からみたサンカクシャって…

メシ、うまい

スタッフがイカれてる

フィジカル育成部屋

STEP3 時間と体験を提供する

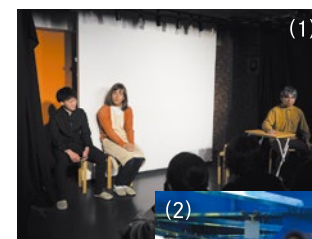
オデカケ

回数: 54回
人数: 206名

かかった交通費(レンタカーなど): 約118万円

ブカツ

回数: 109回
人数: 285名



(2)



海に行ったりキャンプをしたりする「オデカケ」、筋トレやバスケ、資格取得に励む「ブカツ」など、若者の意欲回復に向けた取り組みに力を入れています。プロのお笑い芸人と舞台上に立つチャリティお笑いライブ(1)や、バンジージャンプ(2)など、肝が試される企画は、若者が変わるきっかけになっています。

STEP4 働く体験を提供する

“働く”に向けた活動

229回

※職業体験、日払いバイト、就労プログラムなど

若者がスタッフに！ 「若者スタッフ」の採用数

5名

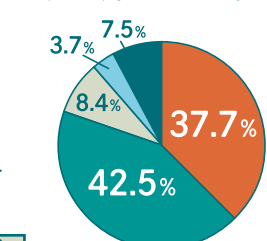
自身も支える側になりたいと立候補。オーディションでの自己PRが評価され、採用されました！支援された経験から、若者とスタッフのあいだをとりもちます。

若者スタッフ Tくん



働きたいと思う気持ちはありますか

■強くある ■ある ■あまりない
■まったくない ■わからない



若者アンケート

5周年記念パーティー



参加者

約200人

2024年5月、団体の設立5周年を記念して、サイボウズ東京オフィスで記念パーティーを開催しました。マンスリーサポーターや企業の皆様にご来場いただき、参加者は総勢で約200名！高際みゆき豊島区長の挨拶や、代表の荒井による10年ビジョンの発表などを通じ、若者支援の重要性を改めて認識する会となりました。

※2025年4～5月実施、サンカクシャにつながっている若者106名対象のアンケートより。



DATE

年間開放日数

サンカクキチ 148 日

ヨルキチ 24 日

フレイムス 34 日

年間利用人数

延べ数 3136 人

実数 138 人

サンカクキチが
「2024 グッドデザイン賞」受賞！

居場所事業

自分らしい居場所が見つけれられるように
サンカクキチを開き続ける

若者が自由に過ごせて、相談や交流ができる拠点としてサンカクキチを運営しています。昼から夜にかけて利用できるヒルキチ、深夜帯に利用できるヨルキチを実施し、食事を提供。キチが開放されない曜日には、個別面談を行いました。意欲が回復しはじめ、きっかけがほしい若者には、一緒に外出して様々な体験をするオデカケも企画しています。

2023 年度に引き続き、2024 年度も新規相談が増えシェアハウスが満室になるなど、ニーズに対して支援の手が追いつかない状況にありました。その中で少しでも継続した支援ができるよう、居場所を開き続けることに尽力しました。新しい取り組みとして、サンカクキチの拠点以外に近隣のスペースを借りて、複数の居場所の運営にもチャレンジ。若者が自分にあった居場所で過ごしなが、地域の人と関係を築くいい機会にもなりました。

2024 年度のトピックス



コーヒースタンド付きレンタルスペース「滝野川フレイムス」で、サンカクキチの分室を開設。街の人も集まる居場所に！（パンこね会の様子）



キャンプにマラソンに！若者と積極的にオデカケに行きました。「楽しかった」が少しでもパワーになりますように。（キャンプの様子）

居場所の役割

① 安心して過ごせる居場所

まずは若者が心身を休めて、安心が得られるような居場所づくりを第一に。場所としての繋がりだけでなく、スタッフをはじめとする安心できる人、面白みを見出せる活動との繋がりが感じられる場づくりをしています。

② 過ごせる相談窓口

ふとした瞬間に、若者が悩みを打ち明けてくれることがあります。困りごとを表に出さない若者も、サンカクキチを利用するなかで頼れる場所や人を見つけ、相談できるように。構えず、雑談の延長で話せる相談窓口の役割も果たしています。

③ 自分の居場所を見つけられる力を育む

自分らしくいられる居場所は、若者自身で見つける必要があります。サンカクキチは安心感をもちながら社会性を育む場でもあり、サンカクキチ以外の居場所を見つけるまでのステップにもなっています。

サンカクキチが始まって 3 年が経ち、今改めて、その意義と向き合う時だと感じています。安心とは何か、若者が社会にサンカクキチするために居場所としてできることは何か。試行錯誤に果てはなさそうです。

居場所事業
統括責任者
早川 智大

居住支援事業

安心できる住まいで生活を立て直す
「生きる」に踏みとどまれるように

「寮付きの仕事を失った」「虐待から逃げて行く場所がない」。住まいに困った若者にシェアハウスやシェルターを提供し、心身の回復を図りながら、生活立て直しの伴走支援を行っています。所持金が数百円、身分証を持っていない、電話代や電気代などのライフラインとなる料金を滞納しているといったケースも。病院や行政窓口とも連携して必要に応じた支援に繋げ、安全・安心が獲得できたら自分らしく暮らせる方法を探ります。

居住支援事業は 4 年目。若者に向き合う時間を増やしつつ、安定的な運用が見えてきたものの、引き続きニーズが高く、若者、相談を受けた行政・他団体からの問い合わせは後を断ちません。部屋は常に満室で、さらなる支援の拡充が急がれます。今年度からは助成金を活用し、若者の家賃をサポートする取り組みを実施。一定の成果がみられ、2025 年度は他団体と連携し新たな施策を進めていきます。

DATE

シェアハウス 3 棟 13 部屋

シェルター 7 室

新規入居者数

シェアハウス 17 人

シェルター数 25 人

退去者 24 人

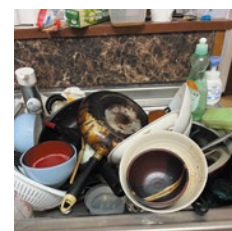
2024 年度までに住まいを
利用した若者の延べ人数

85 人

2024 年度のトピックス



スタッフがシェアハウスやシェルターを訪ねる回数を増やしました。若者に朝食を作ってもらったり、一緒に晩ごはんを作って食べることも。



2024 年度もトラブル対応や荒れた部屋の掃除をたくさんしました。キッチンの洗い物も若者を巻き込みつつ、本人たちがやれるサポートします。

居住支援の役割

① 安全・安心を脅かす危機的状況から距離をとる

心身にダメージを受けている若者がその原因となる環境から離れ、安全で少しでも落ち着いて休める住まいを提供します。これは、犯罪や貧困ビジネスに巻き込まれるリスクを下げることに繋がります。

② 暮らす術を身につける

お金の使い方、ゴミの捨て方、食べたあとのお皿は……？マネープランと一緒に考える、料理や掃除を教える。若者に暮らしのあれこれを身につけてもらうのは、安定的暮らしを目指す居住支援の重要な役割です。

③ 若者のありたい姿と葛藤に寄り添う

本人の経験や特性にあわせて、どうしたらサンカクキチが運営する住まいを出て自分らしく暮らせるかを一緒に考えます。時にはバンジージャンプやキャンプなど、サンカクキチらしい取り組みを交え、若者の「やりたい」と「できない」に寄り添います。

相談数に比してリソースが足りていません。状況は深刻、時間もかかる。だからこそ住まいを通じて、安心できる大人との関係のなかで進んでいく意欲が湧いてくるまでのプロセスを大切にしています。

居住支援事業
統括責任者
久保 菜緒



社会サンカク事業

意欲が回復しても、すぐには働けない若者へ
社会にサンカクするステップをつくる

居場所や住まいを利用して意欲が回復しはじめた若者や、自活に向けて仕事をしたい若者が一歩ずつステップを踏めるように伴走支援をしています。サンカククエストと呼ばれる職業体験や日払いのお仕事を提供することに加え、連携企業と若者の交流の場づくりなど、地域や企業を巻き込んだ活動を実施するのも社会サンカクの役割です。

2023 年度はサンカククエストの運営に力を入れていましたが、2024 年度はさらなるパワーアップに向けて試行錯誤した 1 年でした。サンカクオフィスの立ち上げや日払いの仕事づくりの拡充に奔走。2024 年 10 月からは若者との面談を増やし、一人ひとりに寄り添ったサポートにも力を入れています。一緒に面接用の服を購入し、履歴書や面接のアドバイスをを行うなど、若者が新しい道を見つけていく姿に立ち会いました。

居場所の役割

① 働きづらい若者が生き抜けるように

意欲が回復した若者も、これまでの経験や体験格差から、コミュニケーションの難しさ、心身が消耗しやすいなどの事情を抱えています。

② 若者の社会への信頼を取り戻す

多くの若者は大人からの否定や無関心を経験し、社会への不信感を抱えています。就職しても周囲に頼れず、人間関係につまずいて転職を繰り返すケースも。社会に踏み出すには、まず失敗してもいい環境で、安心できる大人と働く経験が重要です。

③ 若者の自信を取り戻す

自信がなく、何かに挑戦することが難しい若者も多くいます。社会サンカク事業で経験した「自分の手で仕事が進む」「役に立っている」実感が自信となり、仕事の面白さを知るきっかけになっています。

DATE

サンカククエスト

実施回数	75 回
種類	54 種
参加人数（実数）	44 人
参加人数（延べ）	125 人

就労にかかる面談・同行

実施回数	130 回
参加人数（実数）	34 人
参加人数（延べ）	130 人

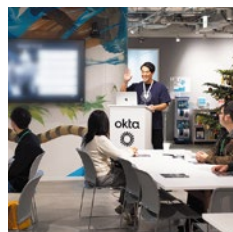
連携企業

54 社

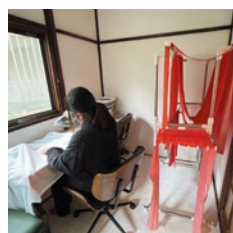
クエストの依頼主、
見守った大人の数

66 人

2024 年度のトピックス



今年度も様々な形で企業と連携。株式会社 Okta Japan との交流会では、社員の皆様に挫折体験をどう乗り越えたかをお話いただきました。



サンカクシャが仕事を請け負い、若者が日払いで働く試みをスタート！生活の助けになるほか、自分の得意な仕事を知る機会にも繋がりました。

若者の就労支援は社会に多くありますが、サンカクシャの若者のほとんどが既存の仕組みに乗れずにいます。支援に繋がりにくい若者たちに合った形の事業の創出が急務となっています。

社会サンカク事業
統括責任者
菊川 恵



TikTok
AwardsJapan
2024

TikTok for Good 賞
受賞！



アウトリーチ

もっとハードルを低く、間口を広く
まだ出会えていない若者へ

誰かに頼る、相談する選択肢を持たない若者に、興味を持ってもらえるように。若者に向けてサンカクシャの情報を発信し、支援に繋がる手前の役割を担っています。YouTube や TikTok ではサンカクシャやスタッフの雰囲気が見えるショート動画を投稿し、週 1 回ほど TikTok のライブ配信を実施。SNS を通して相談前の若者とも繋がっています。

「相談するなんて下さい」と思っている若者にこそ相談してもらえように、楽しい仕掛けを考えて情報を届けていきます！

アウトリーチ担当
寺中 湧飛



調査



報告書「若者を対象とした宿泊・居住支援を実施する団体の先駆的事例紹介」

宿泊・居住支援に先駆的に取り組んでいる 11 団体に対してインタビュー調査を実施。(2025 年 2 月公開)
※本報告書は公益社団法人ユニバーサル志縁センター様の休眠預金を活用した「親に頼れない若者の独り立ちサポート事業助成」を受けて作成されました。



報告書「若者居住支援団体の包括連携支援体制の構築」

他団体との連携を強化し、相互に学び合え、取りこぼしのない支援体制構築を目指した取り組みをまとめた。(2025 年 3 月公開)
※本報告書・活動は、令和 6 年度(2024 年度)の社会福祉振興助成事業(WAM助成)により実施されました。

視察受け入れ実績

こども家庭庁、東京都や豊島区などの地方公共団体、学校、NPO 法人、企業の皆さまに、居場所事業の拠点である「サンカクキチ」を見学いただきました。

年間受け入れ数：155 件、357 名

視察先：サンカクキチ（東京都豊島区上池袋）

主な視察組織名：こども家庭庁、東京都、豊島区、経済同友会など

講演実績

地方公共団体、学校、NPO 法人の皆さまよりご依頼いただき、若者支援の活動や居場所のあり方についてお話しする機会をいただきました。

・立教大学社会福祉研究所主催「若者の「住まい」の確保が大切だ！」

・「子どもの権利条約フォーラム 2024 in 東京」

・生活クラブ生活協同組合・神奈川主催

「居住支援を考える学び 若者と居住」

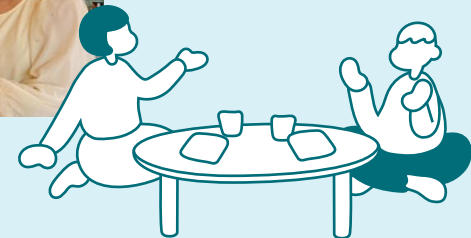
ほか多数

企業 行政 地域 の人たちとともに 広がる支援の輪

就労インターン

働く自信をつけて、
アルバイトを始めるきっかけに
株式会社ラコステ ジャパン

アパレル業界や企業理念について学ぶ座学に始まり、実店舗での商品陳列から接客までを体験する就労インターンプログラムを1週間にわたって実施していただきました。このプログラムに参加して、働く自信をつけた若者が、新たにアルバイトを始めるきっかけとなりました。



2社の
企業協賛パートナーと、
30人のサポーターの
皆様にご参加
いただきました！

みんなで100km マラソン

ただ一緒に走ることが、若者の力になる

企業で働く人と若者が、もっとカジュアルに関われる場をつくりたいとの思いから、初のチャリティイベント「みんなで100km マラソン」を開催しました。チームになって一緒に走る中で、「ただ一緒に走ることが、若者の力になる」ということを感じていただく機会になりました。

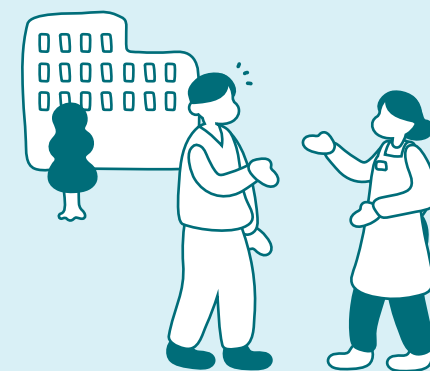
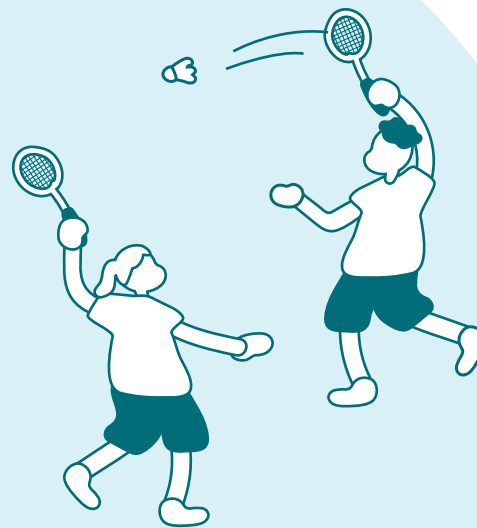


企業・行政・地域の人たちとのやさしい関わり合いが少しずつ広がり、
若者と社会をつなぐ力になっています。

行政 × 企業 × NPO の連携

豊島区と UR 都市機構が若者支援の協定締結
空き家を活用して、新たな支援拠点の設立へ

2025 年 3 月、豊島区と UR 都市機構は、困難を抱える若者の自立支援を目的に、「豊島区における若者の居場所創出の促進に関する協定」を締結しました。サンカクシャは、協定に基づく空き家活用事業者として採択され、若者の居場所や就労支援の場として活用する新拠点の設立を進めています。



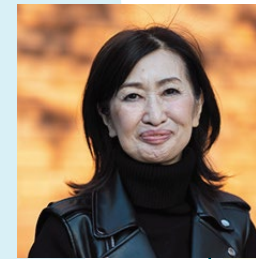
オトナリサン

若者たちと一緒にアートを楽しむ

中嶋 弘子さん

(アート・コーディネーター、Flatart / gift x gift 共同代表)

サンカクシャの「アート部」として、作品鑑賞やワークショップなど、若者たちと一緒にアートを楽しんでいます。アートは対話しながら観ることで、他者のさまざまな考え方に触れる場になります。若者たちが楽しみながら、新しい自分に出会えるような場をたくさん作っていききたいと思います。



若者を応援したい
という気持ちを持って
関わってくださる方たちを
「オトナリサン」と
呼んでいます。

企業連携担当者のコメント

若者の仕事づくりは社会全体で取り組むべき課題

この一年で、若者を支えるサンカクシャを、企業や地域の皆様が支えてくださるという関わりが大きく広がりました。あたたかいご寄付をはじめ、就労や体験の機会など、さまざまな形で多くの若者の背中をそっと押していただいています。これからは「若者の仕事づくり」が大きなテーマで、これは社会全体で取り組むべき課題だと感じています。私たちは最前線で若者と向き合い続けますので、引き続き応援をお願いいたします。



采見 (うねみ) 達也

サンカクシャを支えてくださった企業・団体の皆様 (一部紹介)



サンカクシャをサポートしてくださった個人の皆様

▶ 岩本 拓也 さん

弁護士（第二東京弁護士会）



クラウドファンディングをきっかけにマンスリーサポーターに
自分になかった発想に、ぜひ応援したいと思った

弁護士という仕事柄、生きづらさを感じている人に接する機会は多くありますが、支援の谷間に落ちている若者の存在とサンカクシャの活動を昨年のクラウドファンディングで初めて知りました。「こんな支援があるんだ」と自分の中になかった発想に、ぜひ応援したいと思いました。

▶ 早川 佳歩 さん

アーティスト



アートをきっかけに若者とつながる
若者たちを身近に感じるために、マンスリーサポーターに

サンカクシャの若者たち向けに版画のワークショップをやってくれないかと頼まれたのがきっかけで活動を知りました。その後も、若者たちのことを身近に感じていようと、月額寄付を始めました。サポーターになってからは、サンカクキチの前を通るたびに、「みんなちゃんとお飯を食べているかな？」と思うようになりました。

▶ 山田 翔一朗 さん

会社員



若者は解決すべき「問題」じゃない
自分ごとだからこそわかる、型にはまらない支援の価値

自分自身も学校や家に居づらさを感じて育ちました。若者の存在を解決しなければいけない問題としてとらえるのではなく、今を共に生きる人として、楽しみながら向き合うサンカクシャの姿勢が広がっていけば、若者たちだけではなく、老若男女がもっと息がしやすい世の中になるのではないかなという想いで応援しています。

2024 年度 助成金受取実績

助成対象事業	助成元（敬称略）	助成対象事業	助成元（敬称略）
居場所事業	首都圏若者サポートネットワーク	社会サンカク事業	Tides Foundation
居場所事業	一般社団法人バチンコ・パチスロ社会貢献機構	社会サンカク事業	アドビ株式会社
居場所事業	株式会社 NTT データ経営研究所	社会サンカク事業	一般財団法人デロイトトーマツウェルビーイング財団
居場所事業	サントリーホールディングス株式会社	居住支援事業	一般財団法人日本民間公益活動連携機構 （資金分配団体：公益社団法人ユニバーサル志縁センター）
居場所事業（オデカケ）	社会福祉法人中央共同募金会	居住支援事業	独立行政法人福祉医療機構
居場所事業（部活動）	公益財団法人東京コミュニティー財団	居住支援事業	公益財団法人日本フィランソロピック財団
居場所事業（部活動）	公益財団法人葉田財団	居住支援事業	公益財団法人日本民間公益活動連携機構 （休眠預金等活用法に基づく資金分配団体）
居場所事業（部活動・オデカケ）	公益財団法人戸田寿一・成郎育英財団	社会サンカク事業	Apple Japan 合同会社
社会サンカク事業	Apple Japan 合同会社	組織基盤強化	特定非営利活動法人市民社会創造ファンド

サンカクシャは、休眠預金等活用制度（長期間取引のない預金を、民間の公益活動に活用する制度）に基づく資金分配団体として採択されました。
若者の居住支援に取り組む団体への支援を、2025 年度より本格的にスタートします。

会計報告

2024 年度 活動計算書

科目		金額（単位：円）	
		前期 （2023 年度）	今期 （2024 年度）
経常収益			
	受取会費	45,000	45,000
	受取寄附金	18,885,431	72,930,707 ①
	受取助成金等	55,517,097	53,234,615 ②
	事業収益	11,114,561	11,777,411
	雑収益	1,440,418	2,316,447
経常収益計		87,002,507	140,304,180
経常費用			
	事業費		
	給料手当・法定福利費	19,805,505	34,386,397 ③
	業務委託費	25,533,397	34,602,648
	会議費等	1,552,974	2,072,896 ④
	旅費交通費・車両費	2,685,614	5,852,870 ⑤
	通信運搬費	1,060,727	1,292,405
	消耗品費	1,986,710	2,195,757
	水道光熱費	2,471,043	3,220,393
	地代家賃	2,310,000	2,310,000
	保険料	221,514	436,955
	支払手数料	3,525,034	6,834,290 ⑥
	広告宣伝費	451,000	798,600
	支払支援金		3,023,400 ⑦
	若者家賃	11,326,764	10,401,770 ⑧
	その他経費	1,566,340	1,639,078
	事業費計	74,496,622	109,067,459
	管理費		
	給金手当 / 法定福利費	961,712	3,836,504
	その他経費	7,958,232	8,728,093
	管理費計	8,919,944	12,564,597
経常費用計		83,416,566	121,632,056
当期経常増減額		3,585,941	18,672,124
経常外収益		0	0
経常外費用		0	0
税引前当期正味財産増減額		3,585,941	18,672,124
法人税・住民税及び事業税		70,000	70,000
当期正味財産増減額		3,515,941	18,602,124
前期繰越正味財産額		18,742,420	22,258,361
次期繰越正味財産額		22,258,361	40,860,485

※活動計算書の全項目ならびに貸借対照表、事業費内訳はサンカクシャのウェブサイトにて公開しております。あわせてご覧ください。

① 受取寄附金

クラウドファンディングに 716 人から 1400 万円超のご寄付をいただきました。マンスリーサポーターも 204 人に大幅に増加し、大口のご寄付も寄せられ、多くの方に活動を支援していただきました。

② 受取助成金等

前期とほぼ同水準の助成金をいただいたものの、収入に占める割合は約 6 割から 4 割へと減少。団体設立以来続いてきた、助成金に大きく依存する不安定な財務体質から脱却することができました。

③ 給料手当等／業務委託費

正職員は 5 人から 10 人に倍増。業務委託のスタッフも増え、活動の幅を広げることができました。一方で、相談は今も増え続けており、スタッフを増員しても対応が追いつかない状況が続いています。

④ 会議費等

多くは若者との面談・食事提供に支出しました。「面談」となると身構えてしまう若者には、食事に誘い、何気ない会話から近況を聞くなど交流を続けています。200 人を超える若者を支援しました。

⑤ 旅費交通費・車両費

スタッフの経費だけでなく、バンジーやキャンプなど若者と外出するための交通費も含まれます。外出を増やした結果、移動時間などに車内で若者の意外な本音を聞くことができる機会も増加しました。

⑥ 支払手数料

昨年実施した大規模なクラウドファンディングにおいて、プラットフォーム運営会社への手数料に加え、活動や関係先の増加に伴う銀行振込数の増加などにより、支払手数料が増加しました。

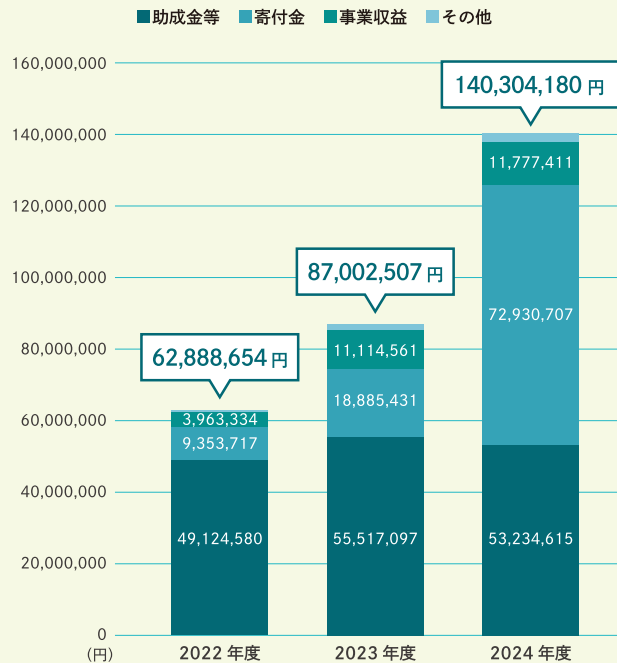
⑦ 支払支援金

新しい科目です。一定の条件を満たす若者に家賃補助を実施し、その効果を検証する実証事業を行いました。他団体と連携することで、その団体で居住支援を受ける若者にも家賃補助を実施できました。

⑧ 若者家賃

若者の居住支援施設の家賃として支出しました。採算性を考慮し、家賃を抑えつつ提供する部屋数を減らすことがないように、借り換えを行いました。

経常収益の 3 期推移



2024年度の主なメディア掲載・出演

6月

▶日本テレビ「news zero」

特集「Good For the Planet ウィーク」で、深夜の居場所「ヨルキチ」が紹介される

8月

▶日本経済新聞（朝刊）

「ひと@TOKYO」のコーナーで、代表理事・荒井のコメントと「ヨルキチ」が紹介される

▶テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」

WBS クロスのコーナーで「若者の貧困」特集され、若者支援に取り組むサンカクシャの活動が紹介される

10月

▶Forbes JAPAN 12月号

特集「到来！『NPO新時代』」で、「いま注目のNPO50」に選出される

12月

▶NHK ニュース「おはよう日本」

特集「年末年始“家がしんどい”若者たち」で、年末年始の若者の居場所「コシキチ」が紹介される

2025年2月

▶朝日新聞（夕刊）

「いま聞く」のコーナーで「親を頼れぬ若者 どう支援」と題して、代表理事・荒井のインタビューが掲載される

2025年7月 / サンカクスクエア誕生！

若者の就労に特化した拠点「サンカクオフィス」の構想から1年。

2024年度のクラウドファンディングや皆様のご支援により、東池袋駅から徒歩5分の場所に「サンカクスクエア」が誕生しました。心より御礼申し上げます。

就労準備のための居場所に加えて、若者が働く居場所、飲食事業、炊き出しなど、様々なプロジェクトが動き出す複合拠点となりました。

今後は既存の枠ではキャッチしづらい若者の“働く”に向き合い、就労支援の手前である就労準備を目的とした事業を、若者や皆様とともに作ってまいります。



団体名	特定非営利活動法人 サンカクシャ
代表理事	荒井 佑介
住所	〒170-0012 東京都豊島区上池袋 4-35-12 3 階
TEL	03-6905-8287

編集：サンカクシャ、吉見 新 制作デザイン：ヒゲプロ

サンカクシャ SNS

HP <https://www.sankakusha.or.jp/>

X @sankakusha_npo (旧 Twitter)

f <https://www.facebook.com/npo.sankakusha/>

サンカク相談室

TikTok
@sankaku_soudan

Youtube
@sankakusoudanshitsu

ちょっと迷子な若者たち

Podcast
はじめました！



音声メディアでサンカクシャのラジオ番組をはじめました。

“迷子”って、一人ぼっちに見えても、誰かが声をかけてくれたり、道を一緒に探してくれる存在がいれば、少しずつ前に進めるはず。迷いながらも歩いていく若者たちの姿や、そのそばで伴走する大人たちの想いを、ラジオという形でお届けします。

／ おたより募集中 ／
毎週配信！



若者が安心して生き抜いていける社会をサンカクシャとともにつくる

ご支援の方法

個人の皆さまへ

寄付で応援



定額寄付

月々 1,000 円から継続サポート



現在、マンスリーサポーターは
200 名ほど。
2025 年度に 300 名を目指して
います。

単発寄付

お好きな金額を選んでご寄付



サンカクシャの活動は、皆様のご寄付と助成金に支えられています。

親を頼れず孤立する若者が、安心できる居場所を獲得し、少しずつ社会にサンカクできるように。

あなたのご寄付で、若者に居場所・仕事・住まいのサポートを届けます。

※定額寄付は口座振替の対応も承っています。

※ご寄付についてのご相談は、Web サイトのお問い合わせフォームよりご連絡ください。

法人の皆さまへ

寄付で応援

多くの企業・団体の皆様よりご寄付（物品などを含む）、ご支援いただいております。

仕事体験やイベントなど、さまざまな形で連携して若者をサポートしています。

ご検討いただける場合は、Web サイトのお問い合わせフォームよりご連絡ください。

事例は本冊子の p12-13 をご覧ください。

最新情報は
こちら



<https://www.sankakusha.or.jp/>